

がんばれ 認定農業者!! シリーズ⑳

さつま町紫尾

福留官一さん



福留さんは、水稲4haと生産牛7頭を経営されています。また、中山間地域等直接支払制度における下東集落協定の会長も務めています。

集落では、高齢化が進み、人も減る中、農地を守っていききたいという意識の中で、電柵や草払いなどに取り組んでいます。

農業の現状は、原油の高騰で飼料などが高くなり、農業者にとって、厳しい時代を迎えているといえます。

福留さんは「農業情勢の厳しい中、如何に経費を抑えて、効率よく生産性を上げるかが大切で、これから先は、経営感覚を持って、農業に取り組む必要があります」と話されました。

さつま町男女いきいき幸せプラン

— 男女共同参画社会 —

近年、私たちの生活は多様化しています。家事・育児・介護・地域活動や趣味・・・仕事をしながら○○○をしたいなど、それぞれの事情や活動領域によって様々です。

老若男女あらゆる人々が、様々な活動を自分の希望するバランスで選択・実現でき、一人ひとりがやりがいや充実感あふれる生活を送ることができ、そんな社会の実現を目指しています。

基本目標②

みんなで築く心豊かで住みよい郷土の
くらしたりや慣習・社会通念の見直し

男性についての男女共同参画

男女共同参画は女性だけの問題としてとらえられがちです。関心の少ない男性や、特に意識せずに生活している方も多いでしょうが、男女共同参画は男性の問題でもあります。

共働きや単身者の増加など、さまざまな家族のかたちがある中で、必然的に育児や家事、介

護に参加する男性は増えてきています。男性の家事労働や地域

参加に対して、社会や企業、個人の中で、今までのしきたりや

慣習にとらわれない考え方で、男女がパートナーとしてお互い

に補い合い、協働する意識が今後ますます必要となってきています。



ふるさと歴史探訪



シリーズ③

長野（永野）金山

このコーナーは、ふるさとの歴史や文化財などを紹介します。
※原則2ヶ月に1度の掲載となります。

長野金山は、寛永17年（1640年）、宮之城領主島津久通によって発見されました。幕府から採掘の許可が下りると、藩では鉱夫6,000人を集め、最盛期には多くの人々が住み、商店や屋敷が建ち並び、大変な賑わいを見せ、藩の財政を支えていたようです。明治に入ると、西洋技術の導入に工場電力化が進み、昭和28年まで300年余りの金山盛衰の歴史が刻まれました。

胡麻目坑でのトロッコ列車（電気式）



産金量が減少した金山を再興するため、明治10年（1877年）、フランス人鉱山技師ポール・オジェを招き、新式採金法に改良されました。胡麻目坑には、採鉱課の本部が置かれ、現場の指揮をとっていたようです。鉱石は電車で約1.5km離れた三番滝搗鉱所へ運ばれ、坑夫の入退坑もここに集中していました。

また、ここには、変電所や鍛冶工場、鉱夫控室、風呂場などが付属していました。

鉱山の坑道略図



明治40年（1907年）、三番滝に新搗鉱所が建設されると、胡麻目坑から三番滝搗鉱所までの約1.5kmの間は、山神集落側にレールが敷設されました。その間にある、九郎太郎川と平八重川には、高さ約2.4mの木橋が架けられました。その後、大正3年（1914年）に、橋脚を石造にして鉄橋に架け替えられました。

トロッコ列車の線路の橋脚



明治42年（1909年）、鉱業館長として着任した西郷菊次郎（西郷隆盛の子）は、青少年の教育に力をそそぎ、文武の指導を行い、夜学校を建設し、幾多の人材を輩出されました。

その志を受け継ぎ、現在も西郷菊次郎顕彰剣道大会が開催されています。

【永野金山特別記念講演会のご案内】

とき 11月2日（日曜日） 午前11時 =開演=
ところ 薩摩農村環境改善センターホール
講師 (株)島津興業 尚古集成館副館長 松尾千歳氏
テーマ 「永野金山と島津」（予定）
※入場は無料です。